

【出題意図】

日々の食卓に並んでいて身近な食材である肉類と、その生産を担う畜産業に着目し、「動物福祉（アニマルウェルフェア）」、「衛生管理」、「需要」、「環境負荷」、「生産」といった5つの視点におけるそれぞれの課題について明記された資料を提示する。そのうえで、受験生がこれらの資料の内容を的確に把握する能力と、資料をふまえて論理的に思考する能力を測る。

各設問と学部アドミッション・ポリシーとの関連性は以下のとおりである。

設問①は、AP（1）の「読解力」「文章作成能力」に対応する。

設問②は、AP（1）の「読解力」「文章作成能力」に対応する。

設問③は、AP（1）の「基礎的な数学的思考能力」に対応する。

設問④は、AP（1）の「読解力」「文章作成能力」に対応する。

設問⑤は、AP（1）の「読解力」「文章作成能力」、およびAP（2）に対応する。

【総合政策学部 AP（参考）】

（1）現代社会における多様な事象を把握するための前提知識として、高校卒業相当の基礎的かつ全般的な学習内容を身に付けている人。特に以下の点を重視する。

- ・ 読解力（英語を含む）
- ・ 文章作成能力
- ・ 基礎的な数学的思考能力

（2）社会や自然環境等に広く関心を持ち、それらの理解に必要な情報を収集できる。さらに収集した情報を適切に関連付けながら問題を発見し、その解決策を導くための論理的思考能力を身に付けている人

（3）自分の考えを適切に表現し、積極的に他者の考えを理解しようとする人

【解答例】

① EUでは従来型バッテリーケージが禁止され、一羽当たり面積を広げ、止まり木や爪研ぎ、巣箱などを備えたエンリッチドケージがケージ飼育の最低基準となった。一方、日本ではバッテリーケージもくちばし切断も絶食による強制換羽のいずれも、禁止・規制する法律は存在していない。（128文字）

② コロナ禍で経済活動が停滞するなか、生産諸資材の値上がりに、人手不足や高病原性鳥インフルエンザ被害が加わり、さらには外食を中心に需要が回復していない。そのため、需要に見合った生産に徹し、「即食」「中食」可能な商品やメニューの開発や、オンラインサービスなどを活用した需要拡大に努めていく必要がある。（147文字）

3 (鶏肉) $326/12=27.16 \dots 27$ 倍

(卵) $326/6=54.3 \dots 54$ 倍

4 畜産業が気候変動の原因となっているのは、反芻動物からゲップとして放出されるメタンガスが温室効果ガスの排出に寄与し、さらに動物の飼育や飼料生産を目的とした農地の開発が森林伐採の主要な動機となっているからである。また、新たな感染症や既知のパンデミックは、ほぼすべてが動物に由来する人獣共通感染症であるから、畜産業による森林の伐採や野生動物の生息地への人間の定住、家畜頭数の増大がその流行の原因となる。(198 文字)

5 世界の家畜の飼育頭数は増加しており、毎年、約 800 億頭の動物がと畜され、日本でも肉類と乳製品・卵の消費量は激増している。膨大な量の家畜を飼う畜産業は、世界の温室効果ガス排出量に対する寄与が 14% と高く、新たな感染症や既知のパンデミックのほぼすべてである人獣共通感染症の駆動要因ともなっている。鶏肉・鶏卵の生産現場では、アニマルウェルフェアに対応するため、バタリーケージの廃止へと進んでいる EU に対し、日本はこれを禁止・規制する法律が存在しない。また、コロナ禍で経済活動が停滞するなか、生産諸資材が急速に値上がりし、これに人手不足や高病原性鳥インフルエンザ被害が加わる。さらに、業務向けの地鶏や外食の需要は低迷している。

鶏肉・鶏卵の生産は、牛肉や羊肉などに比べてフットプリントが小さいことから環境負荷が低いと考えられる。そのため、牛肉より鶏肉を積極的に食べることが検討できるが、しかし、現状の工業的畜産を続ければ人獣共通感染症の駆動要因であり続ける。さらにはアニマルウェルフェアへの対応や、生産諸資材の高騰などによって価格の上昇も想定される。そこで、肉を食べる頻度および量を抑えることや、アニマルウェルフェアに対する配慮の程度を確認できる認証制度の利用が考えられる。また、環境負荷を気にせずにする大豆ミートなどの代用肉や、シカやイノシシといった野生鳥獣への切替え、培養肉の利用なども検討できるだろう。(595 文字)